

実践での教材 (本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合) 2-50

このクラスでの目標は、自分の素直な思いを出し合いそこから学び、自分に自信が持てたり、友達の素敵さに気づいたり、算数を学ぶ楽しさを感じることである。

まず、導入で魅力的なキャラクターが挑戦状を持ってくる。それを解き明かして振り返りを書くことで、次の授業の時に一部の振り返りがのる。子ども達は、楽しみにしていた。これを、子どもたちの作った問題で挑戦状にして友達の関わりが増えたら良いと思った。次に、筆算の解き方を、手を上げて発表する。丸をつけて計算をする解き方が出る。

補助数字の書く位置でおきてしまう間違いを、どうしたら間違えなくなるか討議する。タイル操作や筆算の型わけを通して、理解するのに時間がかり発表できなかつた子どもも計算方法を発表することができた。最後に、自分で好きな商品と問題を書き、他の子の問題を解くことができたらお買い上げのサインをする買い物ごっこをした。

これが発展すると面積を求めることができる。上から見た自分の家を定規で紙に書き面積を求めてみたり、続けて体積も学ぶことができる。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

ごっこ遊びの中に、数字が出るようにする。例えば、お店やさんごっこでは「ドーナツ3個ください。」と言うようにする。このようにして、日常的に数字を意識した声かけをすることで、数字に慣れることができる。また、年長であればお金を使ったごっこ遊びをすることで、より大きな数を使って遊ぶことができる。

参考文献

- 小学校学習指導要領 算数編 文部科学省
教材事典 教材研究の理解と実践 日本教材学会

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）

(2)

自己肯定感が高まる算数の授業を目指して三年生の掛け算の授業をしている。

間違えることが怖い、自分の思ったことを言えない、受け入れてもらえるかの不安など、誰もが思ったことがある話で共感することが多かった。

クラスの少人数が発言していてもその子たちばかりになってほかの子がもっと発言しにくくなる。なので、早く早くに酒井先生は改善しようとし、自分がもてたり気持ちを言い合い、そこから学び、勉強だけではなくこの実践を通して友好関係にも良い風が流れるのではないかと感じた。

発言をあまりしない子も自分を出そう、発言しようという気持ちになっていてすごいと感じた。

- ・キャラクターを使って意識を向ける
- ・自分の振り返り、思い、友達の発言に対しての思いなど
- ・正解ではない発言をしてもみんな受け入れてくれる=なんでも発言しやすい環境
- ・友達の発言で新しい考えが知れる
- ・授業を通して会話をすることで友好関係が広がる

幼・保育でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

年長さんだと考えると人見知りの子や、自分の考えを言わないor先生に言われたら～など一人ひとり違うが、みんなと楽しく過ごしたい、話したいと思う。だからこそ教科書で読んだ発言しやすい環境を作ることが大切だと感じた。

年長さんになると集団行動が増える。いやな思いをしてもなかなか言えない子がいたり、自分の意見を持っているのに言えない、諦めるなどあると思うのでそういう現状をなくせるような環境にしたい。

自分の気持ちを伝えあうことができたら今まで以上に先生や友達との仲も深まるので、子供たちの成長につながるような声かけをしていきたい。

参考文献

希望をつむぐ教育

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）

小学校教育では、六年間で低学年、中学年、高学年の発達の段階に応じた資質・能力を身につけていく。第2章の5の話では、第三学年の算数の筆算の単元で、友達と関わり協力していく中で自己肯定感を高めるような授業をしていた。筆算は子どもそれぞれのやり方、解き方があり、自分たちの意見を出し合っていた。そこから友達の意見で知ったり気づいたりし、逆に自分の意見に友達が賛成してくれる自信がつく。子どもが発表した意見に対して他の子が反対しても「なぜそう思ったか」「どこが間違っているのか」を、またみんなで話し合う。責めるのではなく、みんなで答えを見つけられるように。話し合いという形をとると今まで自信がなかった子も積極的に発言し、授業の感想では自分の考え方や、友達の意見についてどう思ったかなどが詳しく書かれていた。発言できたことの達成感から成長が見られた。これが中学、高校になるとグループディスカッションや討議などにつながってくる。グループディスカッションや討議などは受験や面接する際でも必要になってくることであり、就職した後もミーティングや会議などがある。子どもの頃から話し合いの力をつけておけば今後のいろいろな場面で有利に働くと考える。

幼・保育でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

これらの授業の環境構成や工夫につなげるためには、幼児教育で何をすべきなのかを考えた。題材にするとしたら、導入の場面で質問などをし子供に考えさせることや、グループで協力して説いていく活動などを取り入れる。幼児教育においては、幼児期の特徴から、育みたい資質・能力は「遊び」の中から学んでいく。子どもの自発的な活動である遊びや生活の中で学ぶ。子ども同士の喧嘩の場面では、なぜたたいてしまったのか、何がきっかけになったのかなど、事を噛み碎いて子どもに質問し考えるよう支援していく。一気に答えに導こうとするのではなく、噛み碎いて少しづつ明らかにし解決していく。そしてあまり教員が介入せずに子どもの口から思ったことを伝えるように促す。そうすれば自分の考えを伝える能力や、自己主張の力もつき、その後のグループディスカッションや討議でも必要になってくると考える。

このように、子どもが普段から行っている些細な遊びや行動が、小学校教育やその先にどれくらい影響のあるものなのかが理解できた。子どものただの遊びでも、それは小学校の学習に必ずつながり、さまざまな教科に関連している。幼児期から色々な遊びを経験させ、たくさんのことを見て吸収させていくために、教員の配慮や言葉掛けが大切だと感じた。

参考文献

<https://conobie.jp/article/2719>

<http://ecbalance.blogspot.com/2013/10/no315.html>

ここでいう教材の連続性の主題とは教材をただ理解する事だけなく、学び楽しみそれを通して自分に自信を持たせ、友達の意見を聞き取り入れようとする事である。全章を通して自分の意見を自己主張できるようになる、授業を楽しくできるようにと考えられていることだ。「間違えることがこわい、わからないといえない」という子どもたちを理解し、「わからない、ここまでではこう思った」など自分の素直な思いを出し合い、そこから学び、自分に自信が持てたり、友達の素敵さに気付いたりできるクラスの雰囲気になっていけば一番であるといった考え方のものから、実践されている。実践では、キャラクターとストーリー性を授業に取り入れ授業自体が一つのレクリエーションのようにわくわく楽しみに子どもたちができるよう工夫されている。そして教師は答えをただ伝えるだけではいけない。先ほどのキャラクターを使いヒントを出したりし説明していき児童に考えさせるのだ。そして文字だけで考えるのではなく、絵を導入し児童が書いたりし考えるものも取り入れていた。このように子ども達のことを考え一步踏み出せるように手助けが大切であるとこの本から伝わってきた。実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）

教材研究を加えるについて、「何のために教えるのか」という教材の「目的」を明確に把握する。そのためには「何を教えられなければならないか」という内容を把握していく事が必要である。この学年で指導すべき内容がしめされている学習指導要領の指導事項との関連を押さえておく。

そこで調べ私なら児童の理解が深まってきたら、**レクリエーション**のように動きも取り入れて楽しめるようにする。

かけ算じゃんけんを考えた。

【やり方】

1. 2人組
2. 「かけ算ジャンケン、ジャンケンポン」と2人で息を合わせて言う。
3. 最後のポンで、両手の指をいくつか折って手を出す。
3. 両方の指をかけた数を早く言った方が勝ち

ワケハナ??

といったものだ。わからなくてもそこで友達同士で教えあつたりできる。

きっと楽しんでできるのではないかと考えた。

さらに、どうしたら勝てるか頑張るようにもなると思。

ある意味友達同士で競争心が生まれこれからの向上への発展もはかれるのではないか。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

かけ算はまずこの年ではまだできないので、レクリエーションのように授業を進めていた
やり方に観点を置いた。

幼保では、レクリエーションとして行事活動で様々な集団行動がある。

そこで集団で行動する難しさ、大切さがわかるようにしていく。

簡単に小学校での話をだしていき説明し子ども達がイメージできるようにする。友達同士
でお話したりするのもこの時期とても大切だ。話を聞き、自分の話をしたり出来たらとて
も良い。これからのために発表会などをし、人前にでて話したり、友達の事を見て聞いて
学んでいけるようにしていく。

参考文献

<http://ayumu.ikora.tv/c1226.html>(小学校レクリエーション・ゲームと雑感)